

## 『地域通貨を知ろう』

著者 西部忠

岩波書店

なぜ今、注目されるのか

〈経済的要因〉

### 1 公正な交換と地域経済の活性化 担当：近藤 (p.26～29)

- ・地域通貨が注目されている最もわかりやすい理由は不況であることだ。地域通貨が不況に対する従来にはない画期的な処方箋と考えられた。
- ・地域通貨の源流は「労働証券」や「交換銀行」など。これらは地域経済の刺激を目的とする地域限定の通貨ではなかった。
- ・世界の不況などを背景に世界各地で地域通貨が出現した。
- ・地域通貨は、地域内の自律的な通貨循環を形成して不況や失業を解決し、地域経済の内部から動かすことを目的に生み出され導入される。
- ・地域通貨は国家通貨が貯めこまれて流通しなくなったときに経済活性化の機能を果たす「緊急通貨」という意味を持っていた。

### 2 グローバリゼーション時代のセーフティーネット

- ・地域通貨が注目されているのは「グローバリゼーション」の渦中にいるからだとも考えられる。
- ・グローバル化は経済を効率化するとされてきたが、通貨・金融危機を生み出し、経済を不安定化し不況や失業という被害をもたらした。
- ・メキシコ、アジア、南米、ロシアなどで起こった通貨危機は、世界経済市場における各国通貨の信用低下に起因する資本逃避をもたらした。
- ・資本はより高い利潤を求めて移動するため、通貨下落や投資環境の悪化が予想されると直ちにそうした地域や国から逃げていく。これは投資先の国の実体経済に壊滅的な打撃を与える。
- ・グローバル資本の急激な移動により、経済格差は個人間や地域間だけでなく国の間でも大きくなる。

・地域通貨は、急激な経済活動の変動の影響を被らないように地域経済を部分的に分離することによって守り、自立的で安定的な成長を可能にするためのセーフティーネット、あるいは国家通貨を補う補完通貨としての役割を果たすものでもある。

#### 感想

地域通貨は不況などの経済状況を解決して経済を活性化するための手段として機能することや国家通貨を補うことができるものであるとわかった。

### 3 グローバリゼーションへのカウンター・メディア 担当：柳 (p29~32)

- ・現在、日本で行われている金融政策はあまり効果を発揮していない
- ・昭和恐慌やバブルの時よりも制御不能な経済状況
- ・国が国民のために経済をコントロールしてきたが、現在、公共財政は危機的様相を呈しており動けない
- ・ソ連の国家が管理する経済システムの失敗から市場の自由化が求められてきたが、それもうまくいかない
- ・市場に委ねることも、国家に依存することも、両方することもできなくなった
- ・地域通貨は手の打ちようのない現在の経済を見直す一手になり得る
- ・グローバリゼーションに対しても有効といえる
- ・地域通貨は新たな経済基盤になり得る

#### 〈社会・文化的要因〉

##### 1 コミュニケーションを活性化する文化メディア

- ・市場は共同体の内部へと入り込み様々なものを資本や商品に変え共同体の成員を「消費者」と「投資家」に変えた
- ・上記のようなこともグローバリゼーションと言われる
- ・結婚や教育などが投資として見られるようになり、貨幣価値が重視され文化や価値観がながいがるになる
- ・コミュニケーションの枯渇、倫理の衰退は肥大化しすぎた市場故なのではないか？
- ・地域通貨は上記の問題を解決する可能性がある

#### 感想

地域通貨は新しいルールとして機能し現在の経済システムの問題を解決することができる画期的なツールだと知ることができた。しかし、地域通貨でのやり取りはかなり近い距離で取引をするので現在のシステムのような滑らかな流通性は無くなるのではないかと思っ

た。

## 2 市民運動の支援ツール 担当：藤井 (p.32~33)

- ・市民団体の多くは資金不足に悩まされ、ボランティア活動に依存している。
  - ・こうした市民団体が参加者の活動に対して地域通貨によって対価を支払っていくことができれば、活動が恒常的なものになり、団体運営が安定化する。
  - ・地域通貨を利用して円の活動資金を調達する仕組みもある。
- 地域通貨は、市民団体の活動や財政基盤の安定化に資するものでもある。
- ・市民団体が地位通貨を自ら作り出し、それが広く一般にも受け入れられていけば、問題の伝達や共有化がはかられる。
  - ・地域通貨は、グローバル資本が生み出す不安的な攪乱要因から地域経済を守り、それを自律循環型に転換するためのセーフティーネット、オルタナティブな市場経済を構想する上での基礎をなすカウンター・メディア、対等で開かれた民主主義的コミュニティの創造と交流の活性化を可能にする、市民活動支援や住民参加型の行政システム構築のためのツールなど、いくつかの観点から注目され期待が寄せられている。

### [コラム]海外の地域通貨

#### ● イサカアワー

- ・1991年にニューヨーク州イサカでポール・グローバルが始めた紙幣型の地域通貨。
- ・ドルへの交換はできない。
- ・イサカアワー委員会中央事務局が発行権限を持っており、九人の評議委員よりなるイサカ準備理事会が発行を行っている。
- ・流通貨幣量は1998年末で年間約40万ドルの経済効果を上げている。
- ・ローカルビジネスの支援も行っている。

#### ● タイムドル(タイム・ダラー)

- ・エドガー・カーンが創始者であるタイムドル協会が1986年に始めた時間預託制度。
- ・教育、保育などのサービスを「1時間=1タイムドル」で評価して各自の口座に記録し、将来自分が利用したり、他の人に寄付したりする。
- ・利子はずかず、口座がマイナスになることも認められている。

#### ● LETS(レッツ)

- ・「LETS=地域交換取引制度」は、世界でもっとも普及しているタイプの地域通貨。
- ・原型は、カナダ・バンクーバー島のコモックス・バレーで1983年にマイケル・リントンが創始。
- ・全世界2千以上の地域で実施されているといわれている。

● WIR(ヴィア)

- ・現存する地域通貨として最古の「WIR」は、スイス・チューリッヒで 1934 年にヴァーナー・ツイマーマンとポール・エンツにより交換リングを行う協同組織として設立。
- ・1936 年にスイス銀行法に基づく銀行へと改組。
- ・小切手型 WIR で支払いが行われ、口座で決済される。
- ・その際、取引額の 0.6%が手数料として銀行に支払われる。
- ・WIR に参加するには入会費と年会費の他に、口座手数料が必要である。
- ・WIR とスイスフランの混合による価格付けが前提されている。

● RGT

- ・アルゼンチンのブエノスアイレス近郊ベルナルで 1995 年にエコロジストのグループが始めた交換リングから発展。
- ・一つひとつの「ノード」は「コーディネーター」と呼ばれる数名の世話人を中心とする 50 人以上の参加者で構成され、毎週、公民館などでバザーを開催している。
- ・全国で数千のノードが「クレジット」という紙幣型地域通貨を共通に使うことで、一大ネットワークを形成している。

● トロントドル(トロント・ダラー)

- ・非営利組織であるトロントドル・コミュニティ事業会社が 1998 年に始めた新しい地域通貨。
- ・ユニークなのは、それが国家通貨であるカナダドルと同じ印刷所で印刷される紙幣であり、しかも、商店やビジネスの参加を促すための額面の 90%でカナダドルに兌換できるようにしたこと。
- ・紙幣は一定の期限がくると無効になる。

● フレンドリー・フェイバー

- ・1999 年 8 月にカリフォルニアのセルジを・ラオが始めたインターネット上の地域通貨。
- ・参加者は割引価格でモノやサービスを提供する。
- ・相手はこの割引分にたいして「サンキュー」を発行してお返しする。
- ・「1 サンキュー=1 ドル」で換算する。
- ・「サンキュー」は兌換できないが、課税対象でもない。

コメント

市民活動支援や住民参加型の行政システムの構築のためのツールとして注目を集めているという部分について、本来、地域通貨は自発的なものであり、民間主導でやるものだったと思うが、行政も一緒になって取り組む方がより活性化するのではないかと思った。